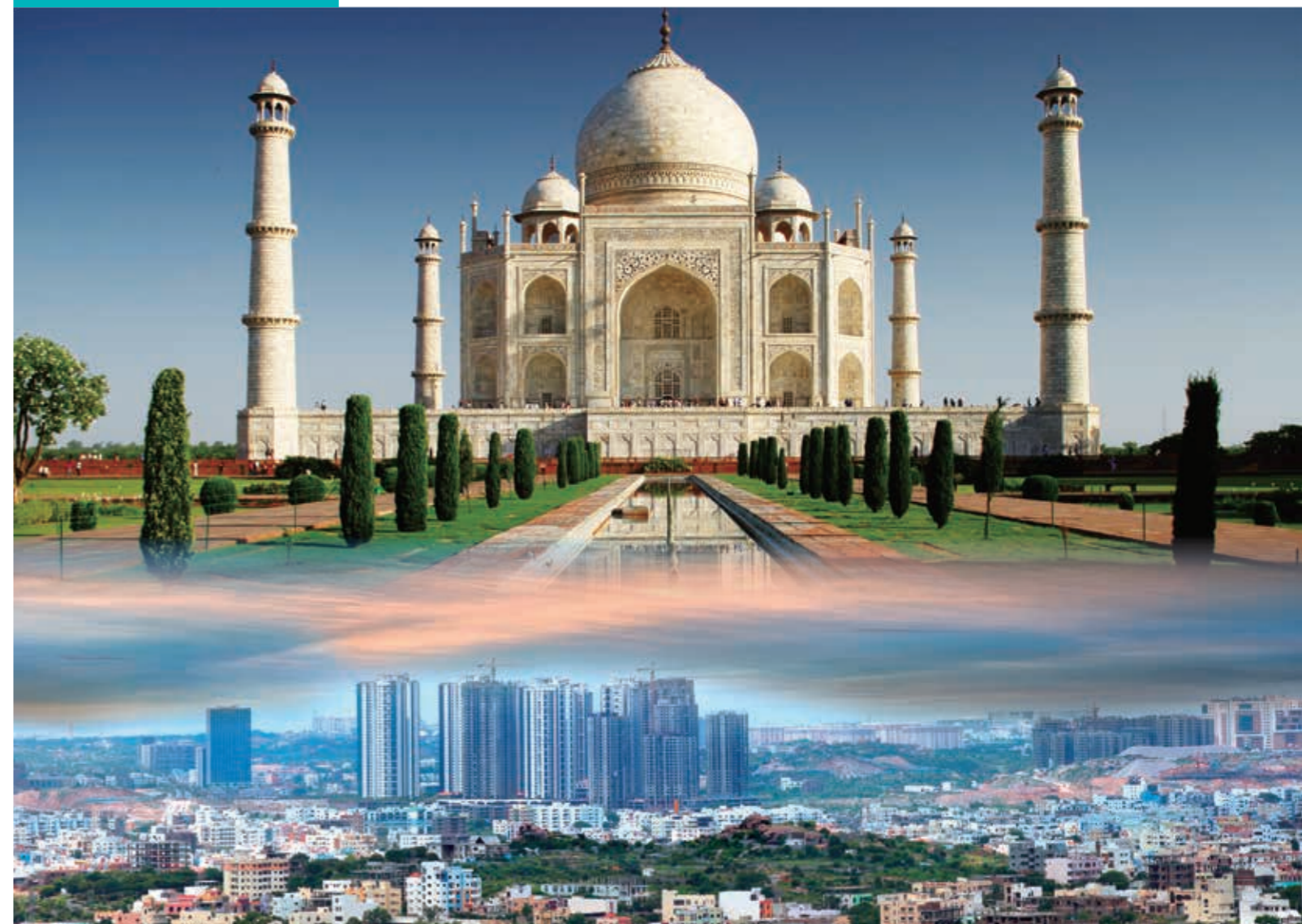


EPI

ウィズダムツリー・ インド株収益ファンド



ウィズダムツリーについて



ウィズダムツリーは、株式、通貨、オルタナティブ商品など、世界各国の様々な資産クラスを投資対象とする独自のインデックスに基づくETFを多数ラインアップに揃えています。ウィズダムツリーは、市場価格ではなくファンダメンタルズに基づき配分を決定するファンダメンタルETFの考え方をいち早く採用し、いずれの分野でも業界のリーダー的存在となっています。ウィズダムツリーはETFに特化した運用会社としては、唯一の上場企業（NASDAQ）です。

本書は、WisdomTreeグループが組成・運用するWisdomTree ETFについての情報提供を目的としたものであり、WisdomTree ETFの勧誘を行うことを目的とするものではありません。本書の内容は、当社が信頼するに足ると考える情報に基づいて作成したものです。当社はその情報の完結性および正確性を保証するものではありません。本書の内容は、作成時点のものであり、市場の環境その他諸事情により予告なく変更されることがあります。当社はWisdomTree ETFの販売はしていません。ご購入については、お取引先の証券会社（第一種金融商品取引業者）にお問い合わせ下さい。インデックス（指数）に直接投資することは出来ません。

リスクについて

投資には投資元本の損失を含む種々のリスクが伴います。WisdomTree ETFでは、それぞれのETFが参照するインデックス（指数）及びインデックスに含まれる金融商品等の変動により、投資元本に損失が生ずるおそれがあります。外国投資には、通貨、政治情勢、及び経済状況に関わるリスクも伴います。特定の国、セクターに焦点を合わせたETFや、中小企業に対する投資を重視するETFでは、価格の変動が大きくなる場合があります。新興市場、不動産、通貨、債券、およびオルタナティブ投資に関わる投資には、個々のインデックスに特有な追加のリスクが伴います。ETFの投資戦略によって、他のETFに比べてキャピタルゲインの分配が少ない場合があります。過去の実績は将来の結果を保証するものではありません。

手数料、費用等について

WisdomTree ETFを取引される際の手数料については、取扱い金融商品取引業者（証券会社）にお問い合わせ下さい。また、手数料に加え外国金融商品市場等における売買手数料及びその他費用がお客様の負担となる場合があります。また、WisdomTree ETFの保有期間中は間接的に運用報酬・管理報酬等がお客様のご負担となります。詳細については、取扱い金融商品取引業者（証券会社）にてご確認下さい。

ウィズダムツリー・ジャパン株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2891号

加入協会：日本証券業協会

© 2017 WisdomTree Japan, All rights reserved.

ウィズダムツリー・インド株収益ファンドの基本情報

→ ティッカー	EPI	→ 基準価額 (2017/3/31)	\$ 24.07
→ 組入銘柄数	249銘柄	→ 総経費率	0.84%
→ 分配頻度	四半期毎	→ 連動対象指数	ウィズダムツリー・インドア・ アーニング・インデックス
→ 純資産総額	1,565百万 USD (約1,756億円)	→ 上場取引所	NYSE Arca
→ ファンド 設定日	2008年2月22日	→ 分配金利回り	1.15%

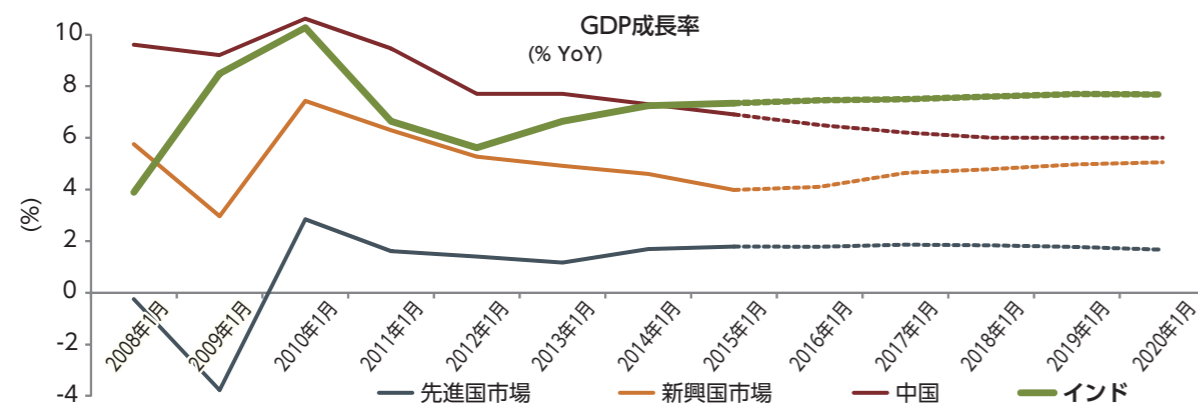
※2017年3月31日時点
※為替レート（米ドル/円）は2017年3月31日のTTMレート112.19円にて換算
※分配金利回りは過去12ヶ月の分配金を基準に計算
出所：ウィズダムツリー、ブルームバーグ

● 今、インドが注目される理由

- ▶▶▶ 世界第2位の人口、約12.7億人を有する巨大市場
- ▶▶▶ 名目 GDP で世界第7位の経済規模であるにもかかわらず、一人当たり GDP では159位であり、今後の成長余地を大きく残している
- ▶▶▶ 中央銀行による強固な基盤は、インドの通貨であるルピーを安定させる手助けになっている
- ▶▶▶ 若年層が豊富であり、今後の消費拡大が期待される
- ▶▶▶ モディ政権は、インフラ整備や投資促進などの政策を積極的に進めており、経済成長の更なる加速が期待できる

出所：IMF World Economic Outlook, CIA World Factbook

● 世界で最も早いペースで成長している大型経済圏

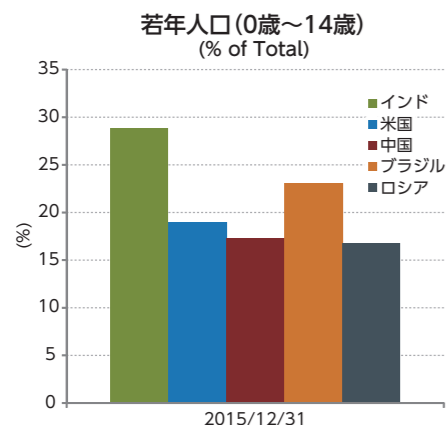


出所：Reserve Bank of India (RBI), IMF. データ時点：2016年7月31日。過去のパフォーマンスは将来の結果を示唆するものではありません。

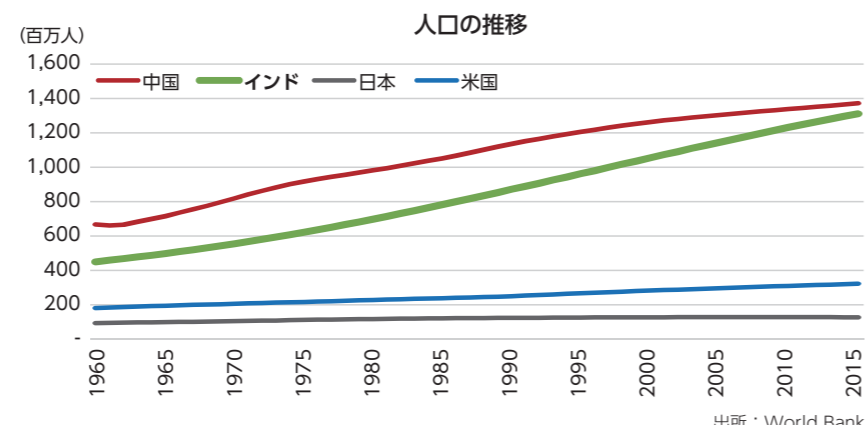
- ▶▶▶ インドの GDP は、引き続き年率7%–7.5%水準で成長
- ▶▶▶ 成長率においてインドは中国を上回っているだけでなく、2016年において最も早いペースで成長した経済圏になる可能性が高い (IMF 予想)

● 良好な人口動態により成長が加速

- ▶▶▶ 確かな労働力供給 (左図)：BRICs および米国のなかで、インド国民の年齢が最も若く、総人口における14歳以下の割合が最も高い
- ▶▶▶ 良好な人口動態 (右図)：世界最大の人口を抱える中国は高齢化しているが、インドの人口は依然として増加している



出所：World Bank, IMF データ時点：2016年7月31日



出所：World Bank

● ウィズダムツリー・インド株収益ファンドの特徴

- ▶▶▶ 利益額加重に基づきファンドの構成銘柄を選定
- ▶▶▶ ファンドの保有銘柄数は249銘柄と大型株から小型株まで幅広い銘柄を含む
- ▶▶▶ ムンバイ取引所またはインド・ナショナル証券取引所に上場するインド株に投資
- ▶▶▶ インドルピー建ての株式に投資することから為替変動の影響を受ける
- ▶▶▶ 毎年9月に構成銘柄をリバランス

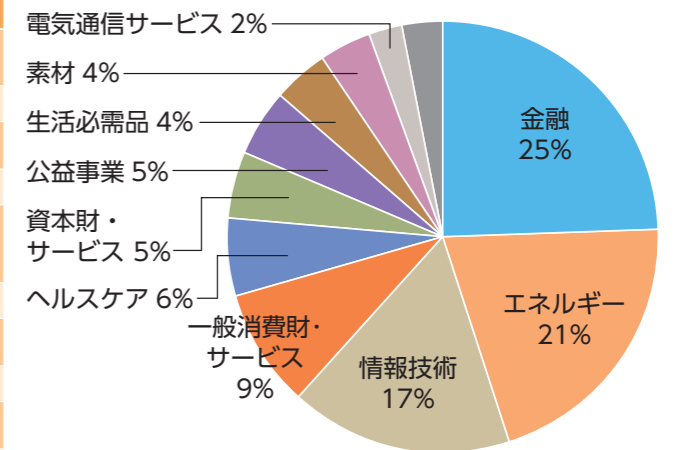
※2017年3月31日現在 出所：ウィズダムツリー

● 組入れ上位銘柄

石油・ガス開発のリアライアンス・インダストリーズ、世界有数のIT企業インフォシス、インドを代表する住宅金融のHDFCなど、成長力のあるインド企業を幅広く保有

順位	銘柄名	業種	比率
1	リアライアンス・インダストリーズ	エネルギー	10.65%
インフラ事業などを手がけるインド最大のコングロマリット			
2	インフォシスリミテッド	情報技術	7.30%
従業員17万人を抱える世界有数のIT企業			
3	ハウジング・デベロップメント・ファイナンス (HDFC)	不動産	6.05%
住宅金融を主な事業とし、中所得者向けに住宅ローンを中心とした融資を行う			
4	タタ・コンサルタンシー・サービスズ	情報技術	3.73%
タタグループのITサービス企業			
5	ICICI 銀行	金融	2.76%
インドを代表する商業銀行の一つ、企業・個人に幅広い金融サービスを提供			

※2017年3月31日現在 出所：ブルームバーグ



※比率は2017年3月31日現在 出所：ブルームバーグ

● ファンドの値動き (過去3年)

2014年4月1日を100として指数化、ドルベース、税引き前分配金再投資後



※2017年3月31日現在 出所：ブルームバーグ

● 分配金実績

権利落ち日	分配金単価 (US ドル)
2017年3月27日	0.07500
2016年12月23日	0.00635
2016年9月26日	0.07000
2016年6月20日	0.12500
2016年3月21日	0.01004
2015年12月21日	0.02353
2015年9月21日	0.11575
2015年6月22日	0.06730
2015年3月23日	0.03143

※2017年3月31日現在 出所：ブルームバーグ